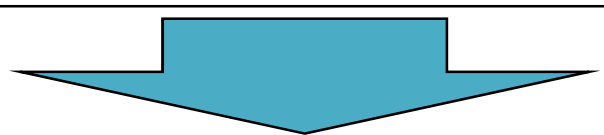


最終評価と現状分析

最終評価

「八ヶ岳スケートセンターの今後のあり方に関する方針(24年度)」における改善策の検証

関係団体が利用者を増加させること
28年度の最終目標値18,080人を27年度18,260人、28年度18,390人で達成済み
 指定管理料の削減が図られること
 24年度以降の指定管理料を削減し実施済み(H24指定管理料は1,490千円削減)
 引き続き、指定管理者が運営すること
 26~31年度の指定管理者として山梨県体育協会が運営して達成済み
 の利用者数について達成状況を評価していくこと
 県、指定管理者、北杜市、関係団体などで構成する利用促進会議を開催し
 て、達成状況を評価して達成済み



~ 全て達成済み

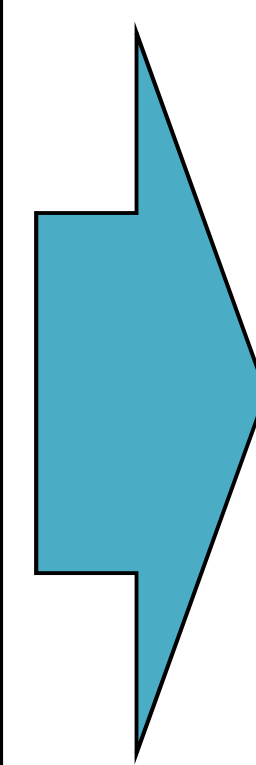
現状分析

施設の利用形態

年間利用者数	24年度: 13,897人	28年度: 18,390人(32%増)
一人当たり経費	24年度: 3,614円/人	28年度: 2,781円/人(約23%減)
[利用者数多い順]		
1 個人利用	24年度: 5,463人	28年度: 6,954人(約27%増)
2 定期券利用	24年度: 3,789人	28年度: 3,800人(横ばい)
3 無料利用	24年度: 1,953人	28年度: 3,673人(約88%増)
4 貸切利用	24年度: 1,161人	28年度: 2,210人(約90%増)
5 団体利用	24年度: 1,531人	28年度: 1,753人(約15%増)

施設利用における特徴

スケート教室による利用
 ・スケート教室利用者数 24年度: 1,913人 28年度: 2,040人(約7%増)
 ・スケート教室開催数 24年度: 20回 28年度: 24回(20%増)
 スピードスケート競技のジュニア選手育成と競技力向上
 本施設は、国民体育大会のスピードスケート競技の得点獲得に大きく貢献している。
 24~28年度 国体平均得点854.3点のうち、スピードスケート競技が平均得点
 90.8点(約1割)を獲得
 90.8点のうち、少年男女の平均得点が43.8点であるが、ほぼ全得点(43点)
 を峡北地域の選手が獲得



今後の施設のあり方と運営の方向性(案)

施設のあり方

当センターの設置目的や利用の特徴を踏まえて、今後の施設のあり方は次のとおりとする。

- (1) スケートの普及振興及びスピードスケート競技のジュニア選手育成や競技力の向上を目的とした施設
- (2) 小中学校が、スケート教室を開催する学校教育で利用する施設
- (3) 県民の健康増進や観光客のレジャー利用を目的とした施設

運営の方向性

「公の施設運営の考え方としては、利用の最大化とコストの最小化を図ることが必要であり、これを達成するため、新たな目標を設定する」

- (1) スケート競技のジュニア選手育成と競技力向上
- (2) 小中学校のスケート教室での利用拡大
- (3) 県民や観光客の利用拡大

利用料金収入の増
(運営コストの減)

「コストを抑えた効率的な管理運営を行うため、指定管理制度による管理運営を継続していく」

現在、平成26年度から平成30年度まで指定管理者(山梨県体育協会)による施設の管理運営を行ったことで最終評価を達成できたことから、今後も指定管理者による施設の管理運営を行っていく。

これまでのスケジュール

11月		12月		1月	
15日	第1回庁内評価委員会	17日	第1回あり方検討会開催	1日	第2回あり方検討会開催
					16日
					スポーツ推進審議会開催